<u>処理概要</u>

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。

- ①営業員在庫情報
- ②倉庫在庫情報

システム利用者

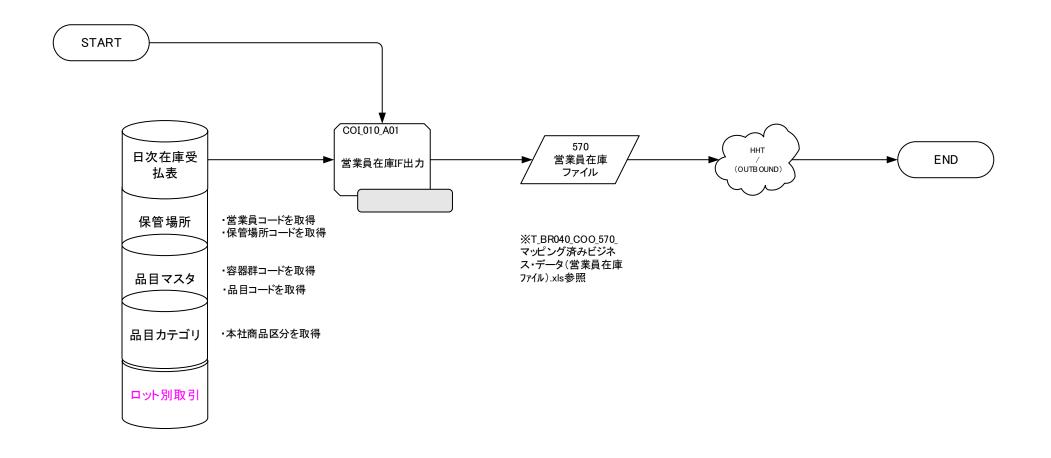
システム連携のみ

処理タイミング、その他

運用時間終了後に1回/日実行する。

システムプロセスフロ一記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- •INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを 明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:





処理概要HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。 ①気づき情報 システム利用者 システム連携のみ

システムプロセスフロ一記入時の注意事項

・機能単位(標準機能含む)で記入すること

・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること

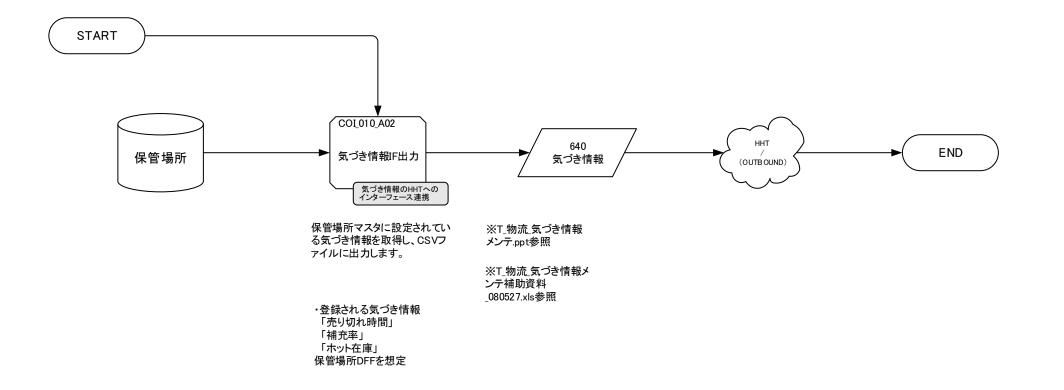
・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること

・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること

・1ファイル、1システムプロセスフローとすること

・フローが複数シートになる場合、 $(\rightarrow \textcircled{1}/\textcircled{1}\rightarrow)$ のように番号でフローの繋がりを明確にすること

・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:





処理タイミング、その他

運用時間終了後に1回/日実行する。

処理概要

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。
①VDコラムマスタ情報

システム利用者

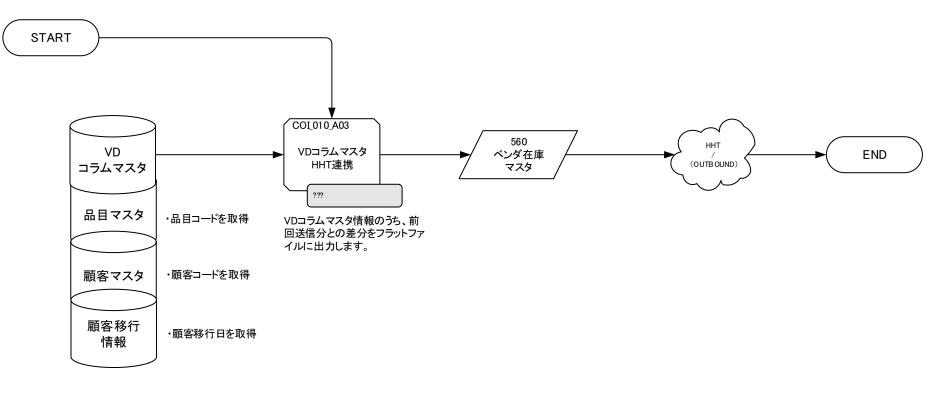
システム連携および拠点_内務担当者 (コンカレントの随時実行は可能だが、HHTまで全て連携可能かは未定)

処理タイミング、その他

運用時間終了後に1回/日実行および手動により随時実行する。 前回送信からの差分を出力する。

システムプロセスフロ一記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- •INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、 $(\rightarrow \textcircled{1}/\textcircled{1}\rightarrow)$ のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



※T_BR040_COO_540_マッピング 済みビジネス・データ(ベンダ在庫 マスタ)Draft1A_080515.xls参照

凡例:





MD050_SPF_COI_010 HHT情報連携 説明: 拠点品目情報をHHTに連携します 「作成日 2011/04/25 作成者 関根 更新日 2018/01/15 更新者 SCSK 佐々木 Ver. Issue3.3

処理概要

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。

①拠点品目情報

システム利用者

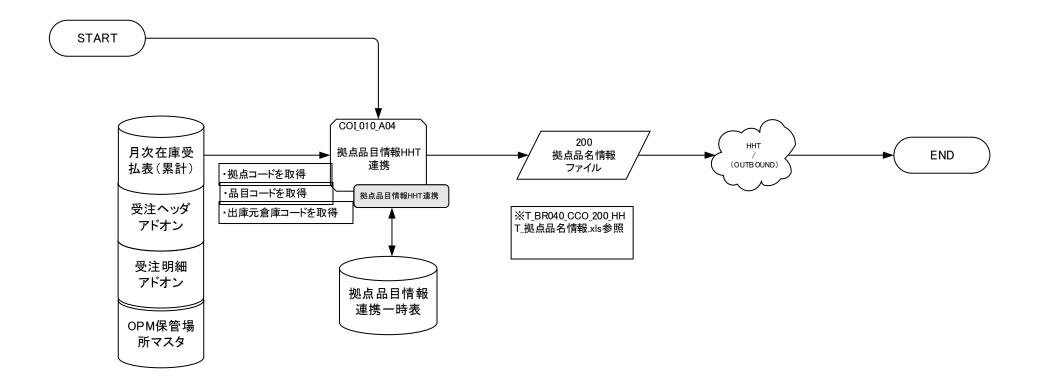
システム連携およびシステム運用者

処理タイミング、その他

運用時間終了後に1回/日実行、および手動により随時実行する。

システムプロセスフロ一記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、 $(\rightarrow \textcircled{1}/\textcircled{1}\rightarrow)$ のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



ORACLE*

MD050_SPF_COI_010 HHT情報連携 説明: 他拠点営業車入出庫セキュリティマスタをHHTに連携します 作成日 2015/04/23 作成者 SCSK 小山 更新日 2015/05/26 更新者 SCSK 小山 Ver. Issue 3.2

処理概要

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。

①他拠点営業車入出庫セキュリティマスタ

システム利用者

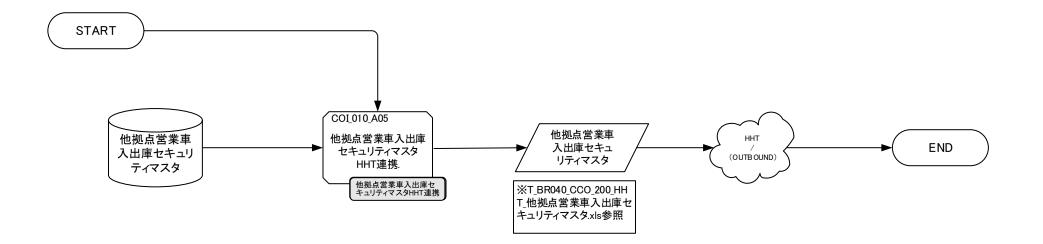
システム連携およびシステム運用者

処理タイミング、その他

運用時間終了後に1回/日実行する。

システムプロセスフロ一記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、 $(\rightarrow \textcircled{1}/\textcircled{1}\rightarrow)$ のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:





SCSK SCSK 作成者 MD050_SPF_COI_010 HHT情報連携 説明: 工場入庫情報をHHTに連携します 作成日 2018/01/15 更新日 2018/01/15 更新者 Ver. Issue 1.0 佐々木 佐々木

処理概要

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。 ①工場入庫情報

システム利用者

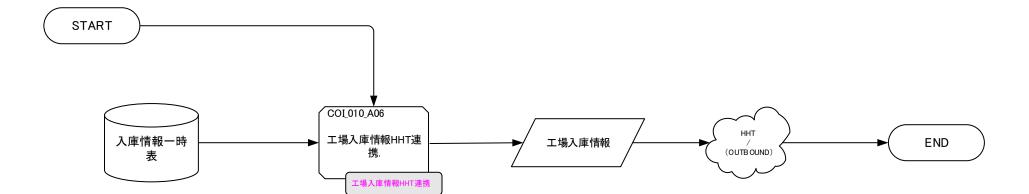
システム連携およびシステム運用者

処理タイミング、その他

運用時間終了後に1回/日実行する。

システムプロセスフロ一記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ·フローが複数シートになる場合、(→① / ①→)のように番号でフローの繋がりを 明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



























SPF接続ポイント

SPF.NO SPF名称

<u>処理概要</u>

HHTへ連携する為、EBSの以下のオブジェクトをCSVファイルに出力する。 ①出荷ペース

システム利用者

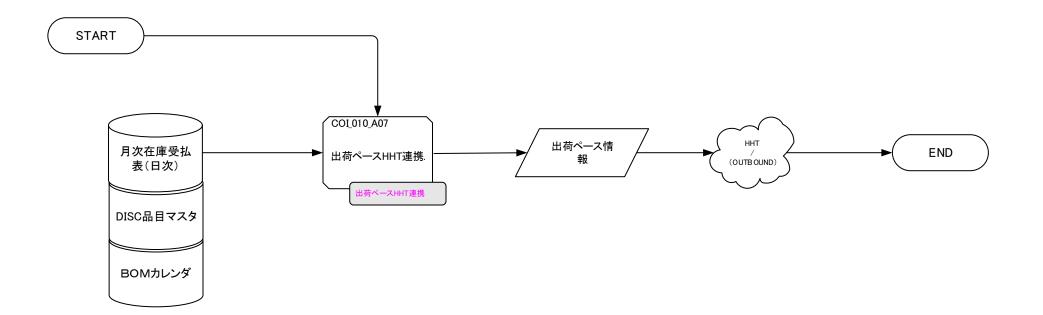
システム連携およびシステム運用者

処理タイミング、その他

運用時間終了後に1回/日実行する。

システムプロセスフロ一記入時の注意事項

- ・機能単位(標準機能含む)で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、 $(\rightarrow \textcircled{1}/\textcircled{1}\rightarrow)$ のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



ORACLE